

御神楽岳前岳南壁V字第一スラブ

斎藤憲一

- 山行年月日:2023年10月26日
- メンバー:斎藤宇 斎藤憲一
- コースタイム:駐車場 7:45～鞍掛沢 8:30～二俣 9:10～V字スラブ入口の8m滝 10:50～V字の広場 11:30～終了点の稜線 13:00～登山道 13:50～駐車場 16:10

およそ1年振りの山行である。それも不安を抱えてのリハビリ山行なのである。果たして患部は完治したのだろうか？体力はどれだけ落ちているのだろうか？最後までパートナーについて行けるのだろうか？ そんな状態の高齢者の思いを察してくれたのだろう、パートナーのヒロシ君はとても優しくかった。

主治医からは『登山道歩きはもう大丈夫でしょう』との許可は出ていたのだが、『クライミングをするのはまだ少し早い』と言われていた。そこで仕方なく、復帰の第一歩はどこか近くの山へ登山道歩きに行くしかないのかなと、自分としてはなかば諦め的に考えているところに、ヒロシ君の平日山行計画を聞かされた。本来の彼の計画は都合の付く新人との日帰り沢登りであるようなのだが、対象者は現れないようなので、それではと私の思いを打ち明けると、すぐに快諾してもらえた。

その私の思いというのは実のところ、登山道を歩くだけでの復帰には、いまいち乗り気になれず、できれば負担の少ない易しめのバリエーションをという事で思い悩んでいたのである。そしていくつかの候補

の中から選択したのが、御神楽岳・前岳南壁のスラブ登りであったのだ。更にその中でも終了点から最も登山道に近く、まだ登ったことのない右スラブに行きたい、との思いをヒロシ君に了解してもらい本山行となったのである。

ロープは8mm 30m一本だけを持ち（ヒロシに持ってもらい）駐車場を歩き出す。この辺りの杉林では間引きだろうか、かなりの杉が伐採されていて、あちこちに真っ白いスギヒラタケが出ていた。心配だった八乙女滝の巻きも順調にこなせてホッとしながら進むと、先行していたヒロシが鞍掛沢出合で待っていてくれて小休止。

ここから沢を進むが沢床がヌルヌルで、ビブラムソールの沢靴は非常に神経を使う。途中でブナハリタケを少々いただきながら、右俣を進んで行くと、次第に紅葉に染まるスラブ帯が望めるようになる。上部の二俣を右に進むと間もなく、右からの支流が現れて『ここが右スラブへの分岐だろうか？』と悩むが、上部のスラブや小尾根などの地形全体を見渡すと、この先から右スラブに入れるだろうと思われ、ヒロシが先行してルートを見定めながら、V字入口の8m滝を右のブッシュから巻いてV字スラブへ向かって登って行く。ここからはほぼ水流沿いに更にドンドン登って行って、V字広場のすぐ下辺りまで来てしまったが、右スラブは遠ざかり、ブッシュ帯をかなり漕ぎながらトラバースしないと行けなくなってしまった。結局、先程の右の支流が目的のアプローチであったことを、今

更ながら知ることとなってしまった。ここまで来てしまったら右スラブを諦めてV字に登るしかない、簡単そうでまだ二人とも登ったことがないという事で、急遽1スラブに登ることに計画変更する。V字広場で休憩して、紅葉真っ盛りのスラブど真ん中からの絶景を眺めながら、今ここにこうしていただける幸せを付き合ってくれたパートナーと共にかみしめる。

広場からの1スラブそのものは、ルーファイをしっかりとすればロープ無しで問題なく、というより快適に登れるのだが、終了点の稜線までもう少しという地点まで来て、心配していた私の太腿がいよいよ痙攣してしまった。仕方なく68番(芍薬甘草湯)を服用して小休止してもらおう。しばし休んでいると太腿も何とか回復して、無事に藪の稜線へ達することができた。ここからは登山道までの稜線上に踏み跡がある事を

期待していたのだが、その踏み跡はごく一部しか確認できないほど自然に帰りつつあり、時々ルートを外し苦労しながら、50分程も掛かってようやく登山道に達することができた。小休止の後、ここからの急傾斜の登山道下りも、病み上がりの方には心配だったのだが、ゆっくりではあるが歩み続けて、ヒロシが待っていてくれた鞍掛沢出合までノンストップで下ることができてホッと胸をなで下ろした。

手術から4ヶ月ちょっと、不安ばかりの復帰戦ではあったが、何とかバリエーションに登り切れてホッとしているし、最後までノーザイルで行けたことでも、多少の自信も湧いてきた。これから少しずつ以前の状態に戻るよう、色々な山行スタイルを重ねていきたいと思っている。今回、気遣いをしながら付き合ってくれたヒロシ君に改めて感謝である。



V字の広場直下に行く